

令和2年度 市民による市政評価 調査結果について（概要版）

企画部総合政策課

1 市政評価について

大仙市では、市民の皆さんの評価や意見を伺い、今後の市政運営や市民との協働のまちづくりを進めるため、「市民による市政評価」を平成18年度から継続的に実施してきました。

平成28年度からは、個別事業に関する評価や意見を調査する「市民による個別事業評価」を実施し、市民目線に立った効率的で効果的な事業実施に努めてきたところです。

個別事業評価については、広く市民の皆さんを対象とする調査と、実際に制度を利用されている皆さんなど、生の声を伺うため特定の層を対象とする調査に区分し、前者を市政評価に組み込み実施しました。

2 調査の種別

(1) 市政評価

第2次大仙市総合計画基本構想に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目（施策）について、「満足度」と「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」を調査した。また、「あなたが思う大仙市について」として、平成28年度から継続して実施してきた「住みやすさ」等の意識調査も行った。

(2) 個別事業評価

施策に基づき実施されている事業の認知度、利用度、意識等の把握や個別具体の施策を推進するための市民ニーズや意識を把握するため、次の6テーマについて調査した。

①分類A：市民全体を対象とする調査

- 1) 成人式について
- 2) 自殺対策啓発事業について
- 3) 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」について
- 4) なかせん千本桜プロジェクトについて

②分類B：制度の利用者など特定の層を対象とする調査

- 5) 地域子育て支援拠点事業について
- 6) 結婚・出産・子育てについて

3 実施方法

市政評価、個別事業評価とも次の方法により実施した。

- (1) 手 法： 郵送アンケート（無記名回答）方式
- (2) 期 間： 令和2年4月23日～5月18日（26日間）

4 調査対象

(1) 市政評価

市内在住で18歳以上85歳未満の方の中から無作為（性別、年齢、地域については考慮）に抽出した市民1,000人。

(2) 個別事業評価

①分類A (1) 市政評価と同じ対象者

②分類B

5) 地域子育て支援拠点事業について

「子育て支援拠点施設」の対象となる、小学校3年生までのお子さんの中から無作為に300人を抽出し、その保護者の方300人。

6) 結婚・出産・子育てについて

次のア)～ウ)を合わせた1,049人。

ア) 市内在住で18歳以上49歳以下の方の中から無作為（性別、年齢、地域については考慮）に抽出した市民300人。

イ) 「市民による市政評価」で抽出された方の中で、18歳以上49歳以下の方449人。

ウ) 「1) 地域子育て支援拠点事業」の対象者300人。

5 回収数・回収率

調査票	送付数	回収数	回収率
市政評価・個別事業評価（分類A）	1,000人	676人	67.6%
個別事業評価（分類B）「地域子育て支援拠点事業」	300人	204人	68.0%
個別事業評価（分類B）「結婚・出産・子育て」	1,049人	610人	58.2%

調査票総送付数 延べ2,349人 回収総数 延べ1,490人 平均回収率 63.4% ※

※ 過去最高

6 市政評価 調査結果の概要

(1) 満足度及び重要度について

〈満足の度合い〉

- ⇒満足度の上位項目は「保健・医療」、「安全・安心体制」、「自然・環境衛生」の順となっており、下位項目は「空き家対策」、「商工業」、「雇用・就労」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、全体的に満足度が増加している。施策の効果が浸透してきていると共に、調査票への施策に対する事業等の説明を平成 30 年度からわかりやすく記載したことから、施策の具体性が増したものと考えられる。
- ⇒昨年度と比較して満足度の増減の変化が大きかったのは、満足度 3.63 で 2 位の「安全・安心体制」（前回より 0.19 ポイント増）、満足度 3.25 で 17 位の「道路・河川」（前回より 0.15 ポイント増）、満足度 3.13 で 23 位の「行財政運営」（前回より 0.15 ポイント増）となっている。
- ⇒昨年度から減少している項目は、7 位の「花火産業構想」（前回より 0.04 ポイント減）のみとなっている。

順位		項目	満足度 ※			
R2	R1			R2	R1	増減 (R2-R1)
1	1	保健・医療	↖	3.64	3.57	0.07
2	6	安全・安心体制	↑	3.63	3.44	0.19
3	3	自然・環境衛生	↖	3.59	3.48	0.11
4	3	スポーツ	↖	3.57	3.48	0.09
5	5	子育て	←	3.51	3.47	0.04
5	7	上・下水道	↖	3.51	3.41	0.10
7	2	花火産業構想	←	3.50	3.54	▲ 0.04
8	8	地域情報化	↖	3.44	3.35	0.09
9	10	学校教育	↖	3.41	3.33	0.08
10	11	社会保障	↖	3.38	3.27	0.11
11	12	社会福祉	↖	3.36	3.26	0.10
12	12	生涯学習	↖	3.35	3.26	0.09
12	9	芸術・文化	←	3.35	3.34	0.01
14	14	地域間・国際交流	↖	3.31	3.25	0.06
15	16	住環境	↖	3.30	3.18	0.12
16	14	観光	←	3.29	3.25	0.04
17	22	道路・河川	↑	3.25	3.10	0.15
18	20	地域活性化	↖	3.24	3.12	0.12
19	17	市民協働	↖	3.23	3.16	0.07
20	21	男女共同参画	↖	3.22	3.11	0.11
21	18	農林水産業	↖	3.21	3.15	0.06
22	19	公共交通	↖	3.19	3.13	0.06
23	24	行財政運営	↑	3.13	2.98	0.15
24	23	移住・定住	←	3.11	3.06	0.05
25	26	市街地	↖	3.01	2.92	0.09
26	25	出会い・結婚	↖	3.00	2.93	0.07
27	27	雇用・就労	↖	2.93	2.84	0.09
28	28	商工業	↖	2.91	2.83	0.08
29	29	空き家対策	↖	2.88	2.82	0.06

※満足度の矢印の説明		
上昇	↑	前年比+0.15以上
やや上昇	↖	前年比+0.05以上+0.15未満
横ばい	←	前年比-0.05より大きく+0.05未満
やや下降	↙	前年比-0.05以下-0.15未満
下降	↓	前年比-0.15以下

〈重要の度合い〉

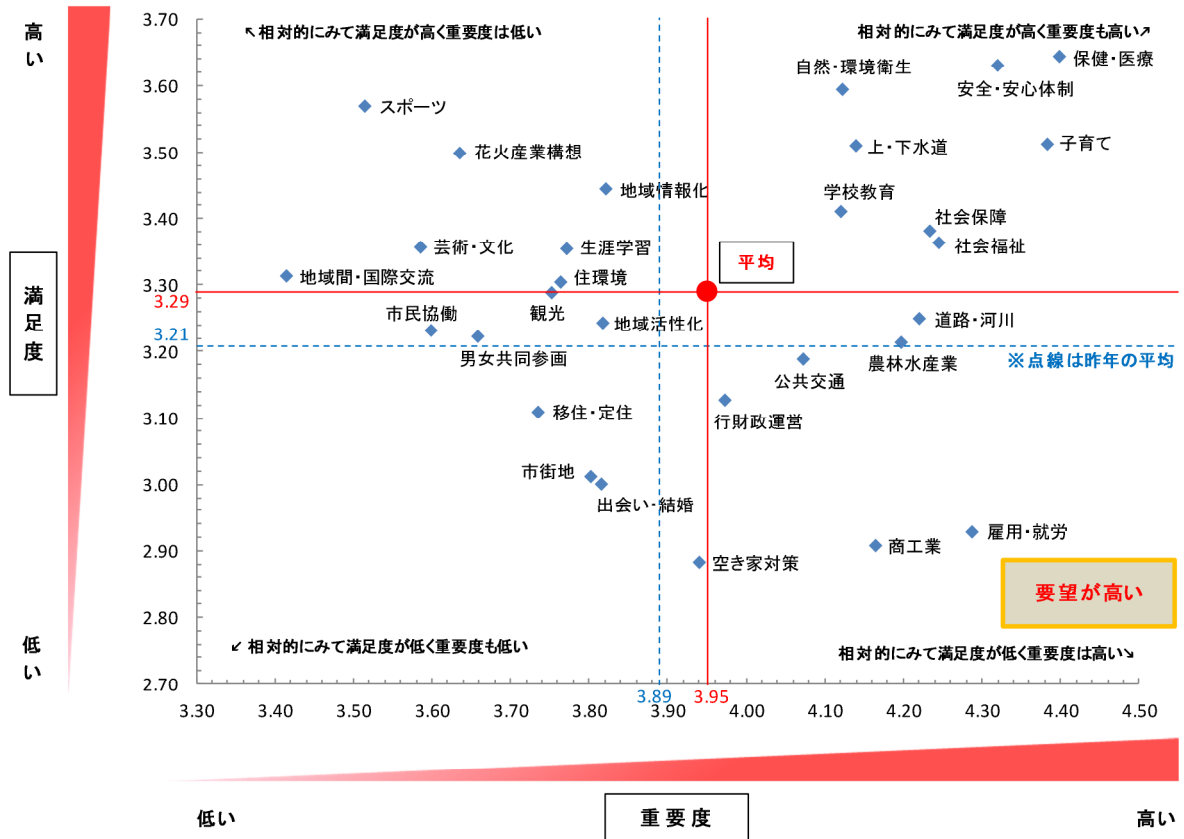
- ⇒重要度の上位項目は、「保健・医療」、「子育て」、「安全・安心体制」の順となっており、下位項目は「地域間・国際交流」、「スポーツ」、「芸術・文化」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、全体的に重要度が増加しており、増減の変化が大きかったのは、重要度 4.20 で 8位の「農林水産業」（前回より 0.18 ポイント増）となっている。
- ⇒昨年度から減少している項目は、22位の「観光」（前回より 0.11 ポイント減）、25位の「花火産業構想」（前回より 0.06 ポイント減）のみとなっている。

順位		項目	重要度 ※			
R2	R1			R2	R1	増減 (R2-R1)
1	1	保健・医療	←	4.40	4.38	0.02
2	2	子育て	←	4.38	4.35	0.03
3	4	安全・安心体制	↖	4.32	4.26	0.06
4	3	雇用・就労	←	4.29	4.27	0.02
5	5	社会福祉	←	4.25	4.25	0.00
6	7	社会保障	↖	4.23	4.10	0.13
7	6	道路・河川	↖	4.22	4.13	0.09
8	11	農林水産業	↑	4.20	4.02	0.18
9	10	商工業	↖	4.17	4.03	0.14
10	8	上・下水道	↖	4.14	4.04	0.10
11	8	自然・環境衛生	↖	4.12	4.04	0.08
11	11	学校教育	↖	4.12	4.02	0.10
13	11	公共交通	↖	4.07	4.02	0.05
14	14	行財政運営	↖	3.97	3.88	0.09
15	16	空き家対策	↖	3.94	3.83	0.11
16	19	出会い・結婚	↖	3.82	3.73	0.09
16	17	地域情報化	↖	3.82	3.74	0.08
16	17	地域活性化	↖	3.82	3.74	0.08
19	20	市街地	↖	3.80	3.72	0.08
20	23	住環境	↖	3.77	3.69	0.08
20	21	生涯学習	↖	3.77	3.71	0.06
22	15	観光	↙	3.75	3.86	▲ 0.11
23	24	移住・定住	↖	3.74	3.66	0.08
24	25	男女共同参画	↖	3.66	3.59	0.07
25	22	花火産業構想	↙	3.64	3.70	▲ 0.06
26	26	市民協働	↖	3.60	3.53	0.07
27	28	芸術・文化	↖	3.59	3.51	0.08
28	27	スポーツ	←	3.52	3.52	0.00
29	29	地域間・国際交流	↖	3.42	3.34	0.08

※重要度の矢印の説明	
上昇	↑ 前年比+0.15以上
やや上昇	↖ 前年比+0.05以上 +0.15未満
横ばい	← 前年比-0.05より大きく+0.05未満
やや下降	↙ 前年比-0.05以下-0.15未満
下降	↓ 前年比-0.15以下

〈要望が高い施策〉

⇒相対的に見て、要望度が高い施策（重要度は高いが満足度は低い）は「雇用・就労」、「商工業」となっている。



(2) 今後、さらに推進すべき取り組みについて

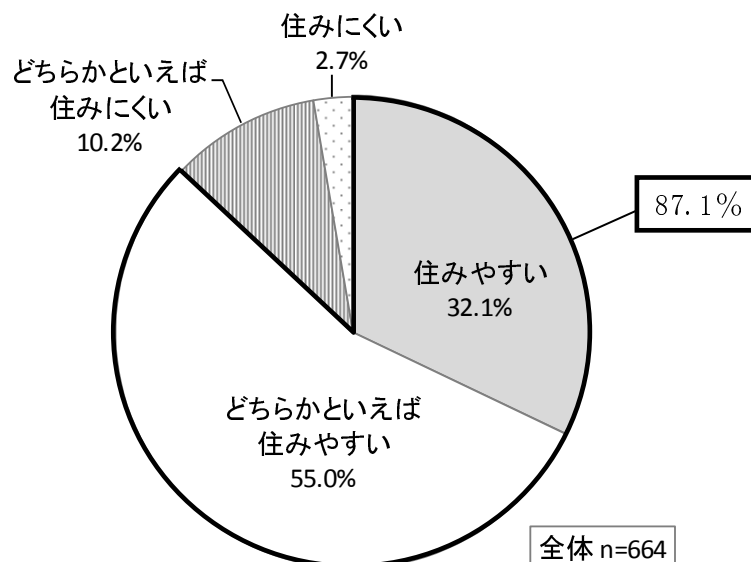
今後さらに推進すべき取り組みとして、各分野で回答数が多い上位3項目は次のとおり。

分野	順位	取り組み内容	回答数
産業分野	1	農業の担い手確保、育成	443
	2	雇用・就労への支援	412
	3	若者の起業支援	310
出会い・結婚・子育て分野	1	子育てに関わる経済的負担の軽減	378
	2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	365
	3	子育て支援サービスの充実	340
健康福祉・スポーツ分野	1	介護サービス基盤等の整備	324
	2	地域医療体制の整備	317
	3	からだの健康づくりの推進	304
環境・安全分野	1	除排雪体制の充実	369
	2	空き家の管理と利活用の推進	299
	3	交通安全、防犯体制の強化	283
都市基盤分野	1	生活道路の整備	366
	2	地域や生活の実情に即した公共交通の整備	256
	3	主要道路網・幹線道路の整備促進	252
教育・交流分野	1	生きる力を育む学校教育の推進	376
	2	学校と地域の交流・連携	273
	3	学校施設の整備	253
地域活性化・市民との協働・行政運営分野	1	若者が活躍できる環境づくり	402
	2	小規模集落・高齢化集落への支援	286
	3	移住・定住への支援	236

(3) あなたが思う大仙市について

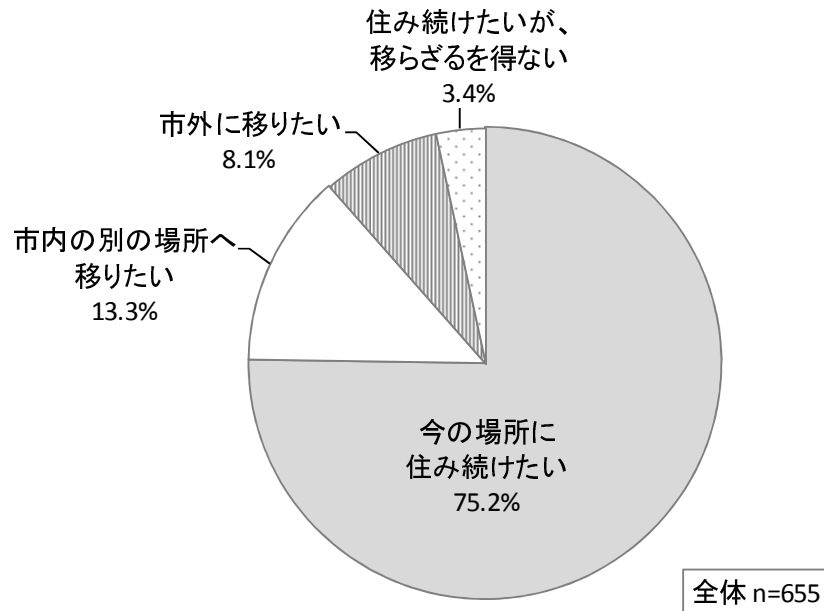
〈大仙市は住みやすいか〉

⇒「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した方の割合を合わせると、87.1%で、9割近くを占めている。(昨年度の82.0%より5.1ポイント増)



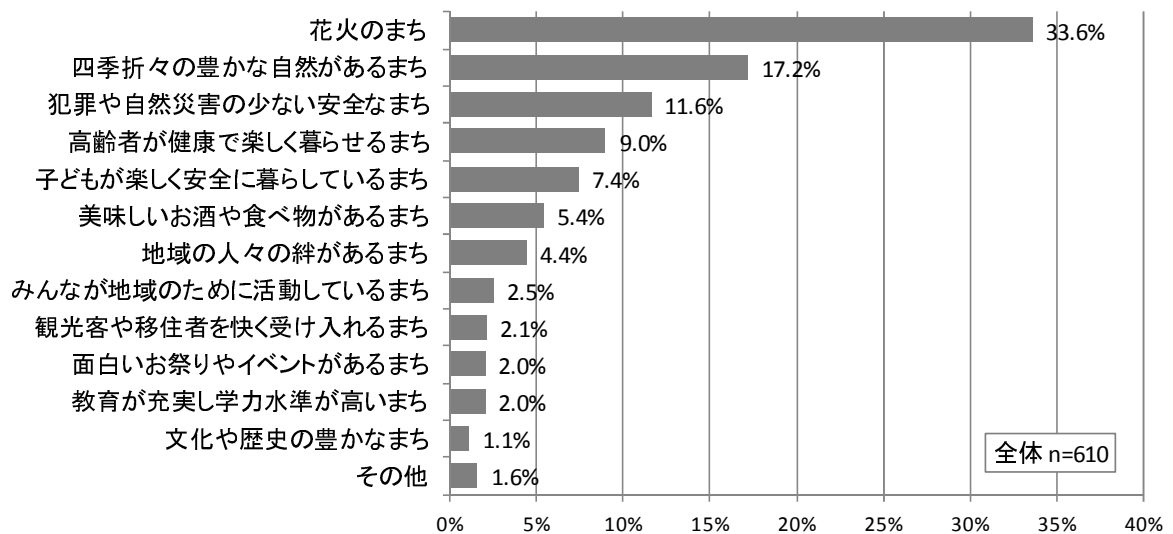
〈大仙市に住み続けたいか〉

⇒「今の場所に住み続けたい」と回答した方の割合は75.2%で、7割以上を占めている。
 (昨年度の71.8%より3.4ポイント増)



〈10年後、大仙市を市外の知人に紹介する場合、どのようなまちとして紹介したいか（単一回答）〉

⇒「花火のまち」と回答した方が突出して最も多く33.6%となっている。次いで「四季折々の豊かな自然があるまち」が17.2%、「犯罪や自然災害の少ない安全なまち」が11.6%となっている。



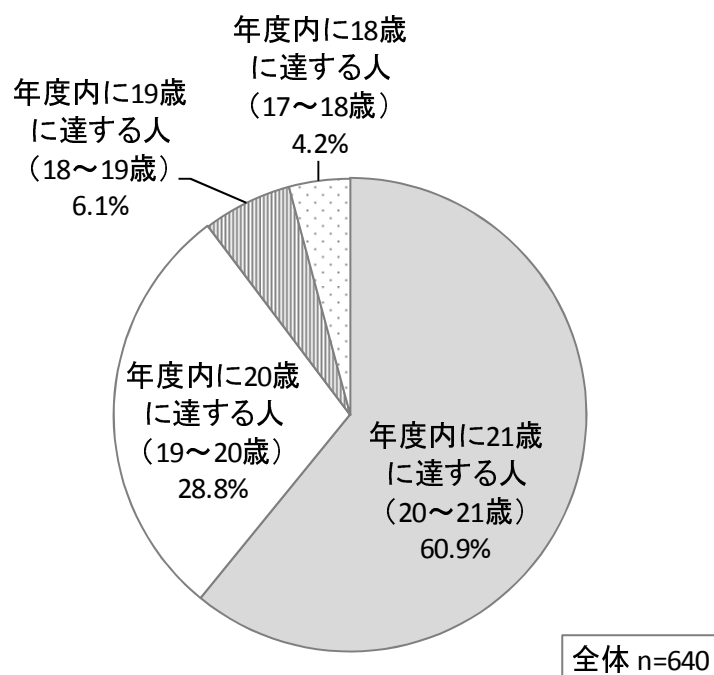
7 個別事業評価 調査結果の概要

(1) 成人式について

調査目的：民法の一部改正により、令和4年4月1日から成人の対象年齢が20歳から18歳に引き下げられるため、成人式の対象年齢や開催時期などについて調査し、令和4年度以降の成人式に向けての参考とする。

〈令和4年度以降、成人式を行う対象年齢としてどの年代が望ましいと思いますか。〉

⇒「年度内に21歳に達する人（20～21歳）」と回答した方が60.9%で最も多く、次いで「年度内に20歳に達する人（19～20歳）」が28.8%となっている。

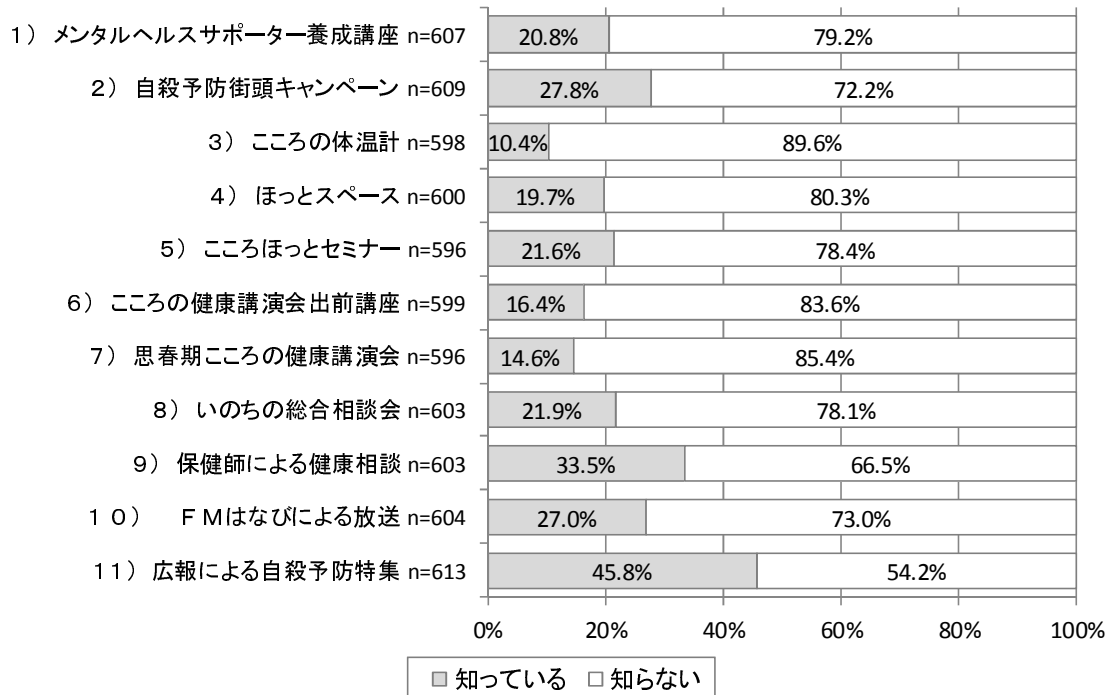


(2) 自殺対策啓発事業について

調査目的：市の自殺対策やこころの健康に関する取り組みについて調査し、今後、効果的に自殺対策啓発事業を展開していくための参考とする。

〈市で行っている自殺対策やこころの健康に関する取り組みを知っていますか。〉

⇒全ての項目で「知らない」の方の割合が大きくなっている。
⇒項目別で見ると、「知っている」と回答した方の割合は「広報による自殺予防特集」で最も高い45.8%となっており、次いで「保健師による健康相談」が33.5%となっている。それ以外の項目では全て7割以上が「知らない」と回答している。



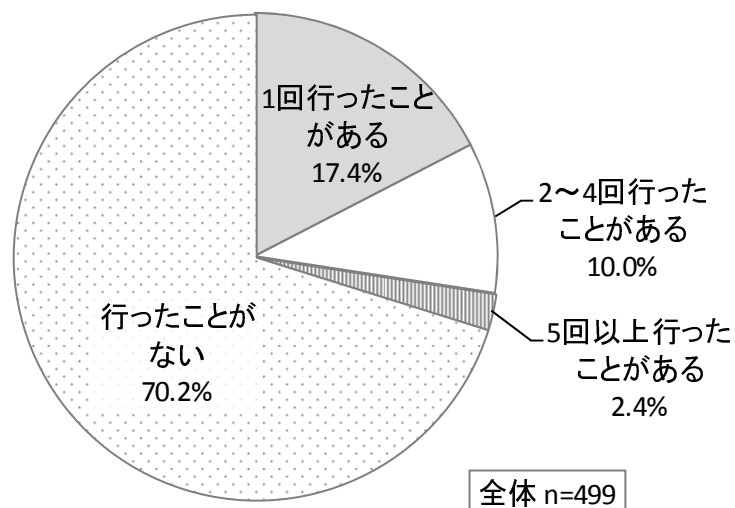
(3) 花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」について

調査目的：花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」の利用状況等を調査し、今後の施設運営の参考とする。

〈3・4階の「花火資料館エリア」をご覧になるために「はなび・アム」を訪れたことはありますか。また、訪れたことがある場合は、何回来館されましたか。〉

⇒「行ったことがない」と回答した方が70.2%で最も多く、7割以上を占めている。

⇒行ったことがあると回答した方の中で最も多かったのは「1回行ったことがある」の17.4%で、行ったことがあると回答した方の中では6割近くを占めている。

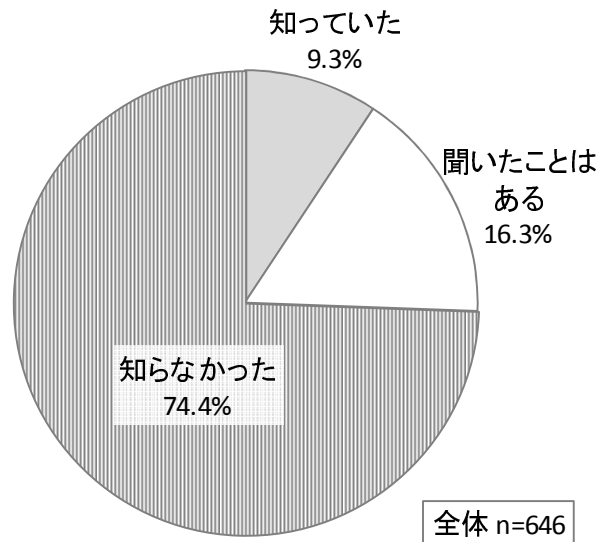


(4) なかせん千本桜プロジェクトについて

調査目的：なかせん千本桜プロジェクトの認知度や地域の桜や桜まつりについて調査し、今後、効果的に観光PR事業を展開していくための参考とする。

〈なかせん千本桜プロジェクト〉を知っていましたか。〉

- ⇒「知らなかった」と回答した方が74.4%で最も多く、7割以上を占めている。
- ⇒「知っていた」と回答した方は9.3%となっている。

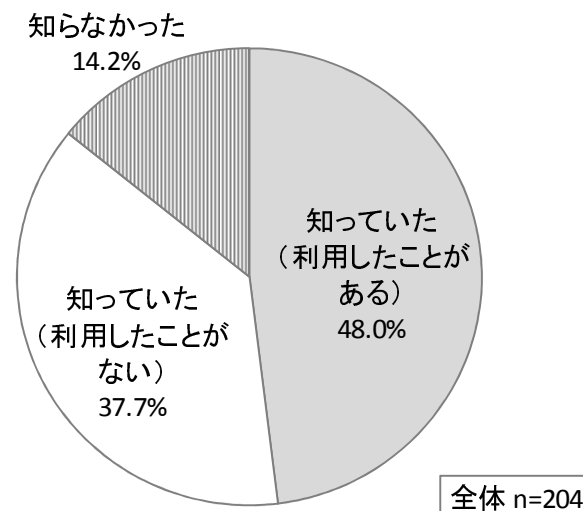


(5) 地域子育て支援拠点事業について

調査目的：子育て支援拠点施設の利用状況等について調査し、今後の施設運営や子育て支援事業を推進していくための参考とする。

〈市の「子育て支援拠点施設」を知っていましたか。〉

- ⇒「知っていた（利用したことがある）」または「知っていた（利用したことがない）」と回答した方の割合を合わせると85.7%で、8割以上が知っていたと回答している。
- ⇒「知っていた（利用したことがある）」と回答した方は48.0%で、約半数が実際に利用したことがあると回答している。

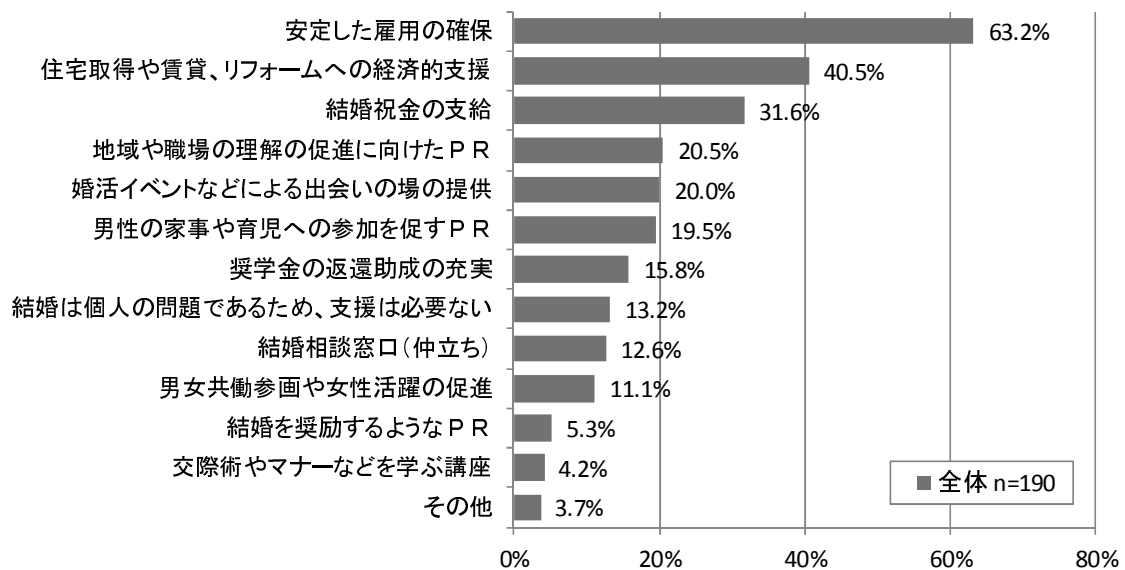


(6) 結婚・出産・子育てについて

調査目的：平成27年度に行った結婚・出産・子育てに関する意識の追跡調査を行い、第2期総合戦略の推進や、子育て等支援制度の設計、見直しをするための参考とする。

〈結婚に関する支援策として、どのような取り組みが重要だと思いますか。(3つまで)〉

⇒「安定した雇用の確保」と回答した方が63.2%で最も多く、次いで「住宅取得や賃貸、リフォームへの経済的支援」が40.5%、「結婚祝金の支給」が31.6%となった。



〈出産・子育て支援において、どのような取り組みが重要だと思いますか。(3つまで)〉

⇒「子育て世帯に対する経済的支援（医療費の無料化や保育料の軽減化、現金給付、奨学金制度等）」と回答した方が63.0%で最も多く、次いで「育児休業の取得や労働時間の短縮、職場の理解促進など、職場環境の充実による仕事と家庭生活や子育てが両立しやすい環境づくり」が34.8%、「保育園、放課後児童クラブなどの施設整備・内容の充実」が29.8%となった。

